



医療法人社団 芙蓉会
ふよう病院
千葉芙蓉病院
きゃらの樹ケアセンター

芙蓉会

理事長挨拶

医療法人社団 芙蓉会 理事長 四ヶ所 大

日頃からお世話になっているコンサルタント会社主催のシンポジウムに参加して来ました。毎年秋に開催されるこのシンポジウムには、かれこれ10年近く続けて参加して参りましたが、国会議員が登壇する事も多く、過去には国会さながらの議論を聴講できたケースもありました。今年は衆議院選挙直前の開催ということで、議員の方々の参加はありませんでしたが、「来年春の診療報酬と介護報酬の同時改定について」という演題のもと、社会保障や消費税増税等とリンクした内容で、医療・介護業界の未来を見据えた討論を聞かせていただきました。

先日、子供と一緒に視ていた学園ドラマのワンシーンで、英語の授業中に生徒からの「何で英語を勉強する必要があるのか」という質問に対し、教師が応える場面がありました。その内容は、「あなた方の世代は、よりグローバルな時代を生きていく時代。少子化はいずれ国内に深刻な労働不足を生じ、結果、外国人労働者が増加する。よって、いずれ大人になって皆さんが働く時は、英語ができないと仕事をするのが難しい時代になる。」というもの。教師の回答は、具体的な言葉でこれからの時代の変化を描写し



ていたのですが、私が子供の頃に視ていた学園ドラマの教師の台詞とはまた異なった時代背景の緊張感に、社会の抱える問題の大きさを改めて実感したできごとでした。

医療・介護業界に身を置く者の一人として、来春の同時改定には、改定率のアップを望みたいところですが、社会保障の財源を考えると厳しい状況だとの認識もあります。特に生産年齢人口の減少や人材不足という課題は、早期に改善できる性質のものではありません。しかし国が抱える借金の若い世代への負担の先送りにも限度がある訳で、未来をこれ以上困難な社会にすることは、避けなければならない重要課題なのです。

「老人は国の宝」

医療法人社団 芙蓉会 (事業所一覧)



- ・ふよう病院
- ・芙蓉ミオ・ファミリア町田
- ・グループホームあおぞら
- ・デイサービスふれあいルーム
- ・千葉芙蓉病院
- ・きゃらの樹ケアセンター
- ・千葉芙蓉ハーモニー
- ・千葉芙蓉ステーション

要介護者の爆増に備える

医師 北村 勇

私はインターン制度のもと、国立東京第一病院（旧称）で臨床各科を実地研修し、有益な一年を過ごしました。医師資格を得て内科を専攻し、消化器病と糖尿病を専門としながら、広く内科領域の診療にあたりました。前転の関東通信病院（現 NTT 東日本関東病院）では、健康管理課に属し、一般内科と併せて社員の健康管理業務を担いました。また、厚生省（当時）の委嘱をうけて、研修医の指導にも携わりました。ご縁があつて当院に参り、日々の業務が総合的な医療を求められる中で、これまでの経験すべてが生かされ、まさに天職として勤続 21 年目になりました。

さて、日本は世界未曾有の速さで高齢社会になりました。2015 年（H27 年）の高齢者（65 歳以上）比率は 26.7% で、ドイツやイタリアを引き離し断トツです。国民総医療費は、過去最高 44.1 兆円を記録しました。あらゆる入院病床は高齢者で溢れており、総医療費の 1/3 以上を後期高齢者（75 歳以上）で占めています。2025 年（H37 年）には、団塊の世代が一斉に 75 歳になり、要介護者の爆発的な増加が予測されています。医療界単独の努力のみでは対応し難く、2025 年を目途に、たとえ要介護になっても住み慣れた地域で暮らしてゆけるよう、医療・介護・予防・住まい・生活支援等の提供が受けられる「地域包括ケアシステム」（地域の多職種が連携して支える仕組み）の構築が、国策としてすすめられています。また、在宅医療に向けて、病院毎の機能別分担



による連携が、各地区医療機関に求められています。回復期～療養型病院では、急性期を脱したあとの“回復期リハ”が重視され、歩行には至らなくとも車椅子で自立が可能となれば、自宅に戻る高齢者が多くなりそうです。退院後は、病院の地域連携室、ケアマネージャー、医療福祉連携士等の横の連携の強化により、急変時にも対応する総合的な在宅支援が計られることを期待しています。

ふよう病院信条には、“患者さまの人生を応援します”というフレーズがあります。高齢社会の中で新しい制度に変わりましたが、医師として、お一人お一人を尊重する医療を、これからも目指そうと思っています。

院内職員研修会報告「医療職から始めませんか 禁煙」

29 年 9 月開催 発表者 ファイザー株式会社

<内容>

- ①喫煙をめぐる社会情勢の変化
- ②医療機関の状況
- ③タバコとは？
- ④喫煙・受動喫煙のリスク
- ⑤禁煙のメリット
- ⑥禁煙の方法

<まとめ>

禁煙に成功すると、職員の喫煙関連疾患の発症リスクの減少、労働時間のロスの解消、クリーンな医療機関というイメージへの向上、と良い事づくめなので、引き続き告知していきたい。



現場に生きる教育 ～机上から生活の場に～

きゃらの樹ケアセンター 副施設長 平野絹子

当施設「介護老人保健施設きゃらの樹ケアセンター」は、施設長に嶋田裕医師を置き、入所定員 100 床（内認知専門棟 30 床）と通所定員 20 名として平成 8 年に開設され、病院と在宅をつなぐ中間施設としての役割を果たしています。環境的にも閑静で四季折々の風景を楽しむことができる自然豊かな心休まる所です。

ご利用者は、君津市、木更津市、富津市、袖ヶ浦市、鴨川市の方が多く入所されています。時には県内遠方の方、県外の方も利用されています。利用者様の要介護度は平均 3 程度（平成 29 年 4～7 月）です。在宅復帰率の向上を掲げていますが、思うようにいかないのが現状です。ご利用者は様々な疾病を抱えています。認知症と診断されている方が多くを占めています。自ら歩行できる方は数名であり、歩行器や車椅子を利用される方が大半です。全員と言ってもよいほど、人の手を必要とした生活をされています。

私は長い間、急性期医療に携わっておりました。就任当時の 13 年前を振り返ってみますと、日常生活を主体とした現在の職場において、どのように指導教育を進めていくべきか戸惑いながらも、新たな挑戦だと吹っ切れた事を思い出します。

看護、介護の基本は変わりありません。施設の状態を確認しながら、課題を見つけ私なりの教育の方向性をしっかりと定めていかなければならないと考えました。与えられたその場には山ほどの教材が散在しています。歩いて教材を探し続け一つひとつ問題を解決していきました。また現場で待つご利用者と交流を深めていくと大きな収穫があります。現場で働く職員の姿もよく見えます。それらを教材として活かし、どこから組織を整備すべきか、職員に何を求めたらよいかを見だし、そこから職場環境の改善



と、教育の方向性を導き出しました。

そんな日々を過ごしていくうちに、机上の考えだけで済まされた事の多かったそれまでの自分から、時間の許す限り「現場に毎日出向く事」を信念として実行する自分に変わっていきました。素晴らしい学者の教本や論説も大切な教材ですが、それにも増して、現場を歩いて得ることこそ、生活ケアを主体とした今の職場において最も大きな学びとなるのではないかと気づいたのです。

現場に身を置く者として、ご利用者が施設に望んでいる事は、人と人との関わり、心あるケアだと肌で感じます。これができると、親近感が湧き、ご利用者も心を開いてくださいます。この施設を利用して良かったと、1 人でも多くのご利用者に喜ばれる施設を目指し、毎日現場を歩き回りたいと思う今日です。

また同時に、職員が基本を知り、個人のニーズに応えられるケア、心あるケアができるよう育つ事を目指し、この施設で働くことができて良かったと思える安住できる施設を、また職員一人ひとりが同じ方向に向かって働ける職場作りを目標に、職員教育を続けていきたいと思えます。

院内職員研修会報告「感染②」 29 年 10 月開催 発表者 感染委員会

<内容>

- ①今すぐ役立つ感染予防」DVD 視聴
 - ・経路別感染症について
 - ・正しい手洗い方法について
 - ・正しい嘔吐物の処理について
- ②凝固剤を使用した嘔吐物の処理の実演
- ③「感染強化月間」に伴う職員の健康管理
- ④職員が感染症を発症した際の就業規則について

<まとめ>

「持ち込まない」「広げない」「持ち出さない」を念頭に感染対策を強化し、感染症を発生させないよう努力していきます。



院内職員研修会報告「安全対策」

<テーマ>

チームステップスについて

<内容>

8月、9月の2回にわたり行いました。

チームステップスとは医療安全推進のためのツールのひとつです。「ブリーフ（打ち合わせ）」「ハドル（途中協議）」「デブリーフ（振り返り）」の用語に示されるように、1日の流れの中で、仕事をスムーズにすすめ、軌道修正したり、確認・評価をする取り組みです。

<感想>

職員同士が誠実に率直に意見を述べることで、安全な業務につながることを学びました。



千葉芙蓉病院 イベント報告

敬老会

9月18日の敬老会の日、台風も心配されましたが無事敬老会を開催する事ができました。38名の患者様、70名のご家族が参加されました。

今年の白寿は2名、米寿は8名、計10名の患者様が表彰され、職員手作りのフレーム付き記念写真をプレゼントしました。

また、2か月に1度来てくださるボランティア床屋の皆様を招待し、ささやかな記念品を贈呈しました。

余興は、ボランティアグループすずらんの皆様。ハーモニカとギターによる演奏で参加者も一緒になって歌ったり、日本舞踊で「しげさ月夜」や「花街一代」の演目を見たりと、参加者一体となるスタイルで盛り上がりました。

敬老会終了後、患者様にはお祝い膳が提供され好評でした。ご家族の方には栄養科による試食会、家族懇談会「今後の入院費について」に

ご参加いただきました。また、毎年恒例となったバルンアートや綿あめの配布も喜ばれました。来年も、患者様、ご家族が参加してよかったと思えるような敬老会ができればと思います。



きゃらの樹ケアセンター イベント報告

敬老会

毎年敬老の日（祝日）に開催しており、今回も沢山のご家族に出席していただきました。進行役は鈴木看護師長。嶋田施設長より開会のご挨拶後、演芸ボランティア「どんぐり劇団」による約1時間の演目披露。歌に合わせて体でリズムをとられているのは勿論のこと、3体の人形による腹話術の時はこの日一番の笑顔がみられました。歌あり・笑いあり・涙あり・踊りありの楽しい時間を過ごしていただくことができました。



医療法人社団芙蓉会 きゃらの樹ケアセンター



見学随時受付中

〒292-0503 千葉県君津市広岡 375-3

TEL 0439-50-7333 FAX 0439-50-7399

